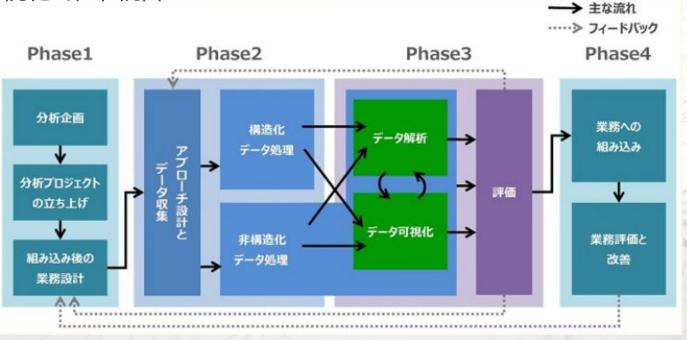


今回学ぶのは探索的データ分析(EDA)のスキルセットの一部としての

データ可視化・確率統計のスキル



https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itssplus.html

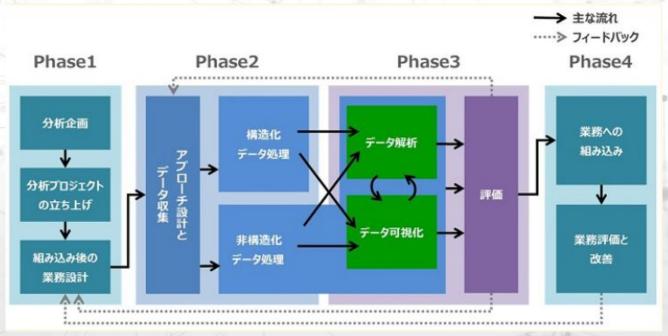
探索的データ分析(EDA)

- データセットに適宜<u>前処理を施しつつ</u>様々な統計量を抽出して **可視化し**、そこに内在する特性・パターン・偏り に仮説立案・検証を繰り返して分析すること
- 「探索的」であることが重要であり、必然的に「試行錯誤」を重ね ることになる
- ①理論やドメイン知識などの事前知識を活用した仮説立案と、
 - ②バイアスを排した特徴観察の両方が重要(知的好奇心も大事)

探索的データ分析(EDA)

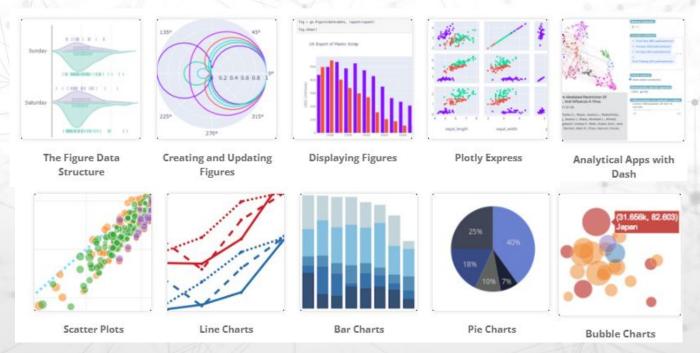
- データサイエンスの文脈では、データ可視化と確率・統計の知識は一義的にはEDAを効果的に行うためのスキル
- これとは別に「コミュニケーションスキルとしての可視化」という 文脈もあり、これと「EDAとしての可視化」では若干考え方や必要なスキル構成要素が異なることに注意すべき

- 可視化することで、クライアント企業に提起すべき課題を**自分が発見できる**
- 可視化することで、クライアント企業に課題を<u>伝える</u>ことができる
- 各フェーズでそれぞれの可視化が必要



https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itssplus.html

データ可視化



https://plotly.com/python/

Pythonにおけるデータ可視化では 主にMatplotlibというライブラリを使う



matplotlibには2つの異なるインターフェースがある

matplotlib(本体API)

【概要】

matplotlibの本体API

【特徴】

オブジェクト指向に従うインターフェースと なっている

【長所】

非常に細かいところまで図を調整できる 図の逐次的な変更がしやすい

【短所】

最低限の利用である場合にも、pyplotより も多くのパラメータを明示する必要がある

matplotlib.pyplot

【概要】

簡易版的な位置づけ(MATLABに近似させたインターフェースという側面もある)

【特徴】

簡素で対話的なグラフ化に特化している

【長所】

細かいパラメータの指定なしに短いコーディングで使える

【短所】

図の細かい作り込みには一部制約あり (完全にはオブジェクト指向でないため)

最も手軽には<u>数行で</u>グラフ化できる(matplotlib.pyplot)

前提:次のようにモジュールをインポートしておく

0

import matplotlib.pyplot as plt

①描画したいデータを用意

②各軸に**どのデータ**を表示するか、**グラフの種類**は何か、の2点を最小限指定する

③グラフ表示を指示 (JupyterNotebookでは事前設定により省略可)

x軸とy軸のそれぞれに表示したいデータ x = [-1.5, 0.7, -0.4, -0.2, -0.3]y = [-1.3, -0.6, -0.2, 1.4, 0.4]# グラフを描写 plt.plot(x, y, 'o') # グラフを表示 1.0 plt.show() 0.0 -0.5-1.0

ミニマムにはたったこれだけで描画できる = <u>グラフ作成は少しも面倒ではない</u>という理解が大事

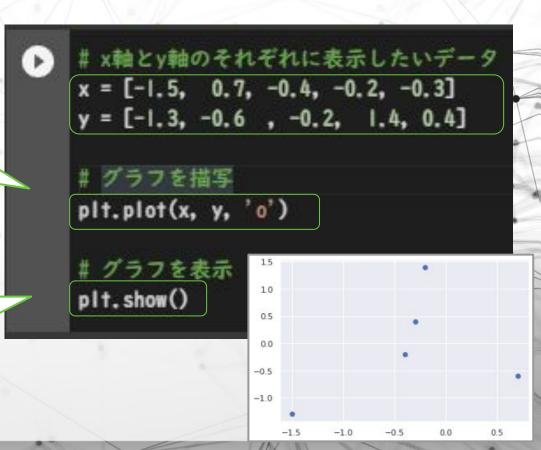
最も手軽には<u>数行で</u>グラフ化できる(matplotlib.pyplot)

前提:次のようにモジュールをインポートしておく

import matplotlib.pyplot as plt

グラフを描画する関数 **plt.plot()**x軸, y軸のデータを引数に渡す

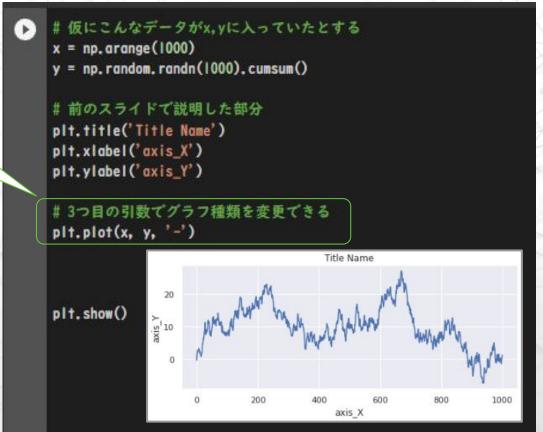
グラフを表示する関数 plt.show()



使用頻度の高いパラメータ(マーカーの変更)

3つ目の引数に指定する記号 ('-'の部分)によってグラフのマー カーを簡単に変更できる





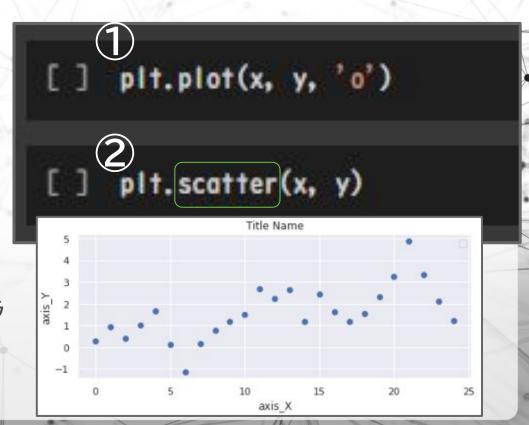
1									14	//		
_	marker	symbol	description		11811	*	star		8 (CARETLEFTBASE)	4	caretleft (centered at base)	9
			point		"h"	•	hexagon1		9 (CARETRIGHTBASE)	•	caretright (centered at base)	
	", "	p.	pixel		"H"	•	hexagon2	4	10 (CARETUPBASE)	_	caretup (centered at base)	
	"0"	•	circle	-	"+"	+	plus		11 (CARETDOWNBASE)	•	caretdown (centered at base)	
			circic		"x"	×	х				11 No. 2 No.	
	"V"	▼.	triangle_down		"X"	*	x (filled)		"None", " " or ""		nothing	
	nAn	A	triangle_up		"D"	•	diamond		'\$\$'	f	Render the string using mathtext. E.g "\$f\$" for marker showing the letter f.	
8	"<"	4	triangle_left		"d"	•	thin_diamond		verts		A list of (x, y) pairs used for Path vertices.	1
	$^{\rm n}$ > $^{\rm n}$	•	triangle_right		" "	1	vline				The center of the marker is located at (0, 0) and the size is normalized, such that the	-
K	"1"	Y	tri_down		"_"	_	hline				created path is encapsulated inside the unit cell.	TO SECOND
	"2"	٨	tri_up		0 (TICKLEFT)		tickleft		path		A Path instance.	101
1	"3"	٠.	tri_left		1 (TICKRIGHT)	-	tickright		(numsides, 0, angle)		A regular polygon with numsides sides,	//
×	"4"	>	tri_right		2 (TICKUP)	F	tickup				rotated by angle.	
-	"8"	•	octagon		3 (TICKDOWN)	Ĭ	tickdown		(numsides, 1, angle)		A star-like symbol with numsides sides, rotated by angle.	
-	"s"	-	square		4 (CARETLEFT)	4	caretleft		(numsides, 2, angle)		An asterisk with numsides sides, rotated by	
-	"p"	公式ドキュメントを		32	:無数に用意され	れてあ	るマーナight カー	-0	の種類を簡単に参照	照で	tangle.	111
		https://matpl	otlib.or	g/	stable/api/r	mark	erstapi.h	nt	ml			
	"P"	+	plus (filled)	11	7 (CARETDOWN)	•	caretdown			62	022 Ryogo Nakauchi	

©2022 Ryogo Nakauchi

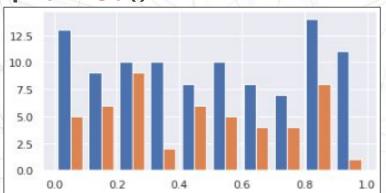
使用頻度の高いパラメータ(グラフ種類ごとの関数)

- 前のスライドでは右図①の方法 でグラフの種類を指定した
- 更にさまざまなグラフ種類を 試したい場合は、②の方法で指 定することもできる
- ②の方法の場合、

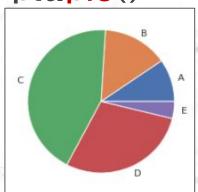
「scatter」の部分を様々なグラフの名前に置き換えることで多様なグラフを使い分けられる



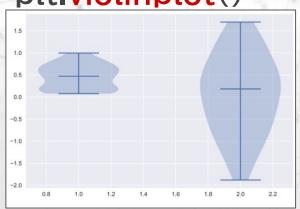
plt.hist()



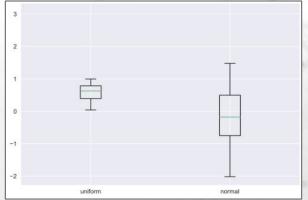
plt.pie()



plt.violinplot()



plt.boxplot()



グラフの種類は無数にあるので公式ドキュメントやチートシートなどを適宜参照しながら使い分ける





Hillshading

Left ventricle bullseve

Anscombe's quartet

Hinton diagrams

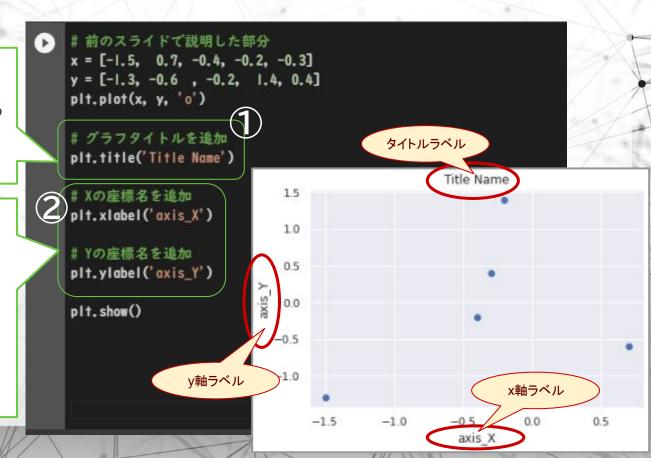
MRI With EEG

使用頻度の高いパラメータ(タイトルラベルと軸ラベル)

グラフにタイトルを追加できる
plt.title()

X軸とY軸のそれぞれに ラベルを追加できる

plt.xlabel()
plt.ylabel()



使用頻度の高いパラメータ(凡例とグリッド線)

①plt.plotの引数「label=」で グラフラベルを指定した上で…

②凡例を追加できる
plt.legend()

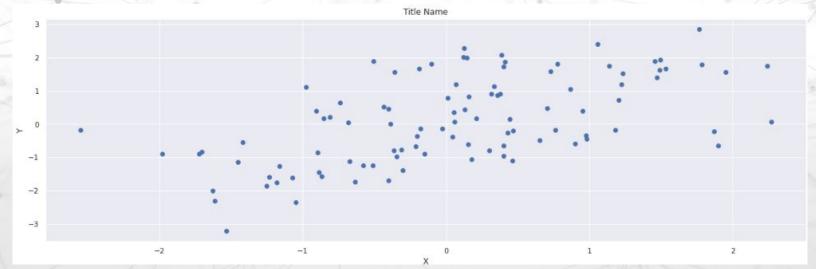
③グリッド線を追加できる **plt.grid()**引数はブール値(True or False)で渡す



使用頻度の高いパラメータ(グラフサイズの変更)

plt.figure(figsize=({x軸の長さ},{y軸の長さ}))

(例)plt.figure(figsize=(20,6))



使用頻度の高いパラメータ(フォントサイズの変更)

各ラベルはいずれも引数に fontsizeを指定することで文字 の大きさを変更できる

もちろんフォントサイズだけではな く、色、書体、その他細かい調整も 可能

気になったことは公式ドキュメントやチートシートで調べる。

```
# グラフタイトル
plt.title('Title', fontsize=20)
# x軸ラベル
plt.xlabel('X_label', fontsize=20)
# y軸ラベル
plt.ylabel('Y_label', fontsize=20)
# x軸の目盛
plt.xticks(fontsize=20)
# y軸の目盛
                        目盛に関する関数
plt.yticks(fontsize=20
#凡例
plt.legend(fontsize=20)
```

公式ドキュメントの見方



Plot types Examples Tutorials Reference Use guide Develop Release notes

Q Search the docs ...

Matplotlib 3.5.1 documentation

Latest stable release

3.5.1: docs | release notes

Last release for Python 2

2.2.5: docs | changelog

Development version



matpiotiip.legend_nandier

matplotlib.lines

matplotlib.markers

matplotlib.mathtext

matplotlib.mlab

matplotlib.offsetbox

matplotlib.patches

matplotlib.path

matplotlib.patheffects

matplotlib.pyplot

matplotlib.pyplot

matplotlib.pyplot.acom

3

API Reference

公式ドキュメントトップページで「Reference」を選択し、遷移したページ左側にある見出しリストから使い方を調べたい関数を探し出す。

Plot types Examples Tutorials Reference User guide

axis labels and a figure title.

o Nakauchi

公式ドキュメントの見方

見出し。住所のように「matplotlibの中のpyplotの中のxlabelというメソッドについて」という構成になっている

どんな引数を指定できるかが()の中に示されている

各引数の詳細説明領域

どんなデータ型で入力すべきかや、どのような選択肢が用意されているかなどが書かれている

その他様々なメソッドと共通のパラメータ。(フォントサイズのようなラベルの外観に関わるものは<u>Text properties</u>を参照するよう記載されている。)

matplotlib.pyplot.xlabel

matplotlib.pyplot.xlabel(xlabel, fontdict=None, labelpad=None, *,
loc=None, **kwargs)

[source]

Set the label for the x-axis.

Parameters:

xlabel : str

The label text.

labelpad : float, default: rcParams["axes.labelpad"] (default:

4.0)

Spacing in points from the Axes bounding box including ticks and tick labels. If None, the previous value is left as is.

loc: {'left', 'center', 'right'}, default:

rcParams["xaxis.labellocation"] (default: 'center')

The label position. This is a high-level alternative for passing parameters x and horizontalalignment.

Other Parameters: **kwargs : Text properties

Text properties control the appearance of the label.

SECT INVOICE MANAGEMENT

Text properties

https://matplotlib.org/stable/api/text.api.html#matplotlib.text.Text

テキストラベル系の関数を制御するための共通のパラメータが全て記載されている(膨大な項目数がある)

例えば前のスライドで示した「fontsize」は ここに説明を見つけることができる

Property	Description a filter function, which takes a (m, n, 3) float array and a dpi value, and returns a (m, n, 3) array scalar or None						
agg_filter							
alpha							
animated	bool						
backgroundcolor	color						
bbox	dict with properties for patches.FancyBboxPatch						
clip_box	unknown						
clip_on	unknown						
clip_path	unknown						
color OF C	color						
figure	Figure						
fontfamily or family	{FONTNAME, 'serif', 'sans-serif', 'cursive', 'fantasy', 'monospace'}						
fontproperties or font or font_properties	font_manager.FontProperties Or str Or pathlib.Path						
fontsize Or Size	float or {'xx-small', 'x-small', 'small', 'medium', 'large', 'x-large', 'xx-large'}						

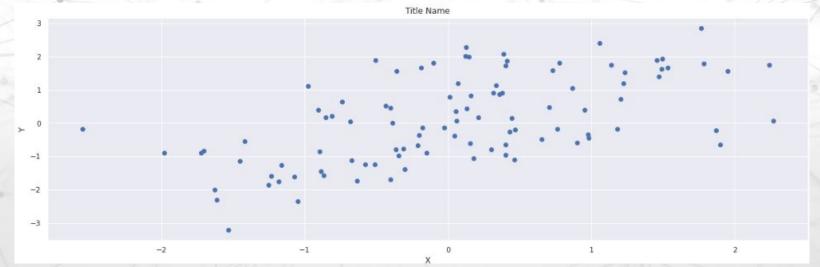
C)2022 Kyogo Nakauchi



使用頻度の高いパラメータ(グラフサイズの変更)

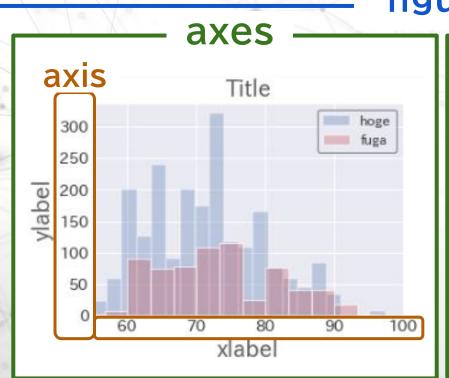
plt.figure(figsize=({x軸の長さ},{y軸の長さ}))

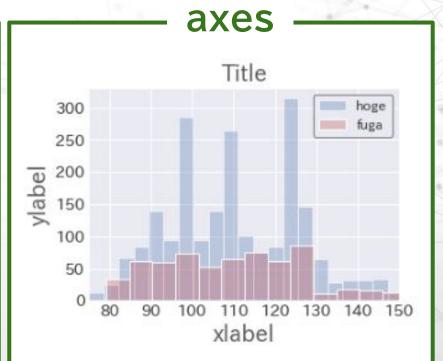
(例)plt.figure(figsize=(20,6))



matplotlibのインターフェイス







複数のaxesを持つグラフ

先ほどはグラフサイズの指定という文脈のみで紹介したが、実はこの関数は「**Figureの新規作成**」という意味もある (pyplotで一つしかFigureを作らない場合は省略可能なのであまり意識しなくてもOK)

Figureのなかに複数のAxesを生成する関数カッコの中に3つの引数が並んでいる。意味は次のとおり。

plt.**subplot**(2, 1, 2)

縦に 2行 、横に 1列 の<u>Axes</u>のうちの 2つ目

```
# グラフの大きさを指定
 1 plt.figure(figsize=(20, 6))
    # 2行|列のグラフの|つ目
2 ( plt. subplot(2, 1, 1)
    x = np.linspace(-10, 10, 100)
    plt.plot(x, np.sin(x))
    #2行|列のグラフの2つ目
    plt. subplot(2, 1, 2)
    y = np. linspace(-10, 10, 1000)
    plt.plot(y, np.sin(2*y))
    plt.grid(True)
```

axes番号の指定の仕方 plt.subplot(2, 3, n) ©2022 Ryogo Nakauchi



MatplotlibとSeabornの関数の違い(データ指定の仕方)

【Matplotlibの書き方】(pyplotも同じ/一応Seabornもこの書き方でもOK)

plt.scatter(x = df['sepal length'], y = df['petal width'])

x軸のデータの指定

y軸のデータの指定

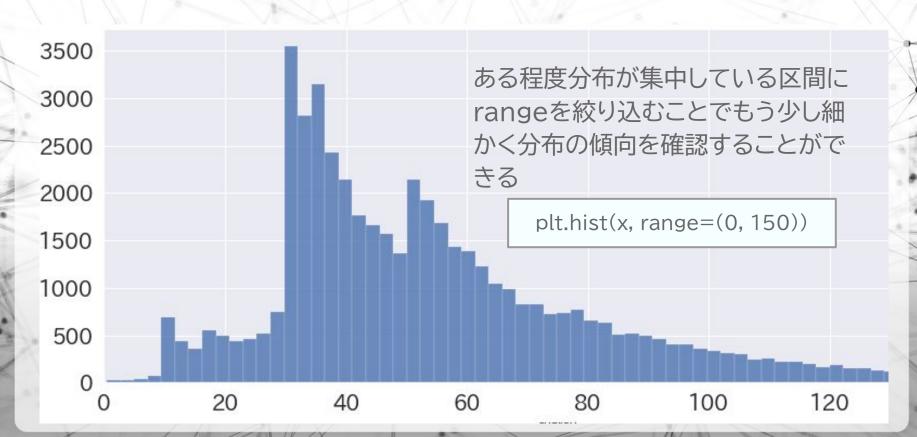
【Seabornの書き方】
sns.scatterplot(data=df, x='sepal length', y='petal width')
データセットの指定 x軸のカラム名の指定 y軸のカラム名の指定

SeabornでもMatplotlibと同じ書き方が一応できるが、引数「data」にデータセットを指定したうえで、引数x・yにはカラム名だけを書くスタイルの方がSeabornではより一般的な書き方(こちらの方が応用が効きやすいため)。

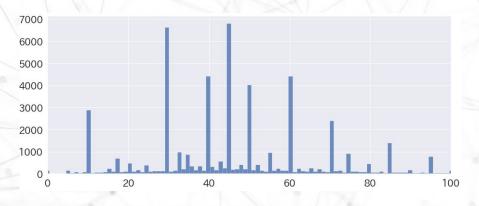
引数rangeの指定をしなかった例

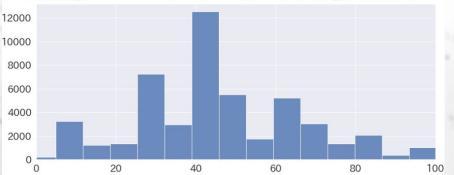


引数rangeの指定をした場合



ビン切りを変えてデータを観察する





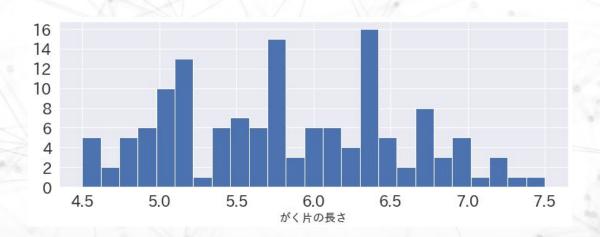
ビンを細かく切った場合

- 局所的に分布の集中している 区間を発見できる場合がある
- 全体像としての傾向が掴みに くくなる

ビンを大まかに切った場合

- 全体的な傾向を把握しやすい
- 局所的に生じている特異的な 分布は見えなくなる

ビン切りを変えてデータを観察する



引数「bins」に整数型の値を 渡して、区間をいくつで切る か指定する。 plt.hist(x, bins={ビン切りする数})で指定する。

【例】 plt.hist(x, bins=25)

グラフごとに引数もたくさんあるので調べながら使う

matplotlib.pyplot.hist

matplotlib.pyplot.hist(x, bins=None, range=None, density=False,
weights=None, cumulative=False, bottom=None, histtype='bar', align='mid',
orientation='vertical', rwidth=None, log=False, color=None, label=None,
stacked=False, *, data=None, **kwargs)

これもほとんど使わない引数が大部分なので覚える必要はない

plt.bar()

plt.bar()で棒グラフを指定

引数のalignは棒グラフを<u>X軸のどこに合わせる</u> <u>か</u>を指定するもの

'center': バーの中心をxtickに合わせる

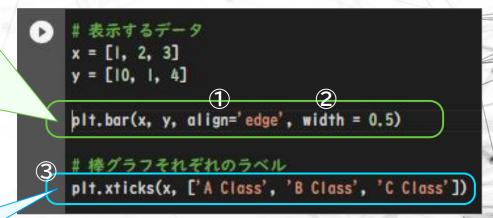
'edge': バーの左端をxtickに合わせる

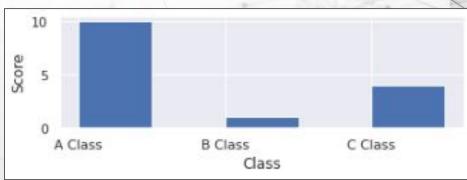
※バーの右端をxtickに合わせる場合は'edge'

を選択した上で、widthに負の数を指定する。

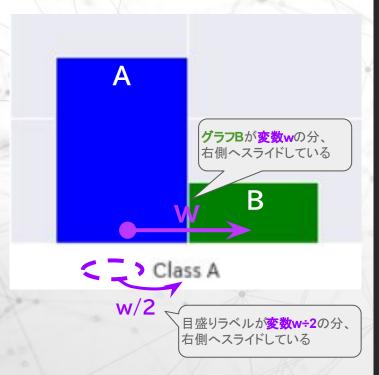
plt.xticks(), plt.yticks()

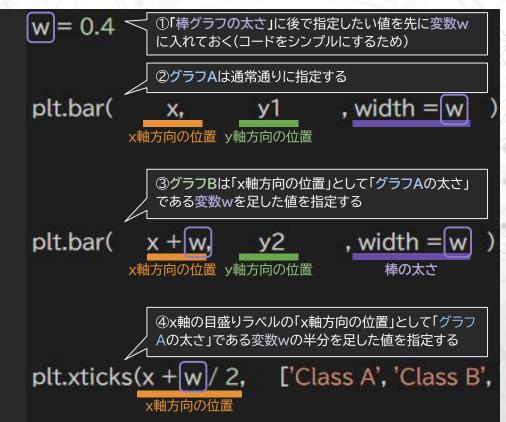
x,yの各軸の**目盛り**のパラメータを指定 第一引数に<u>目盛りを入れる位置</u>の値のリスト、第 二引数に<u>目盛りラベル</u>をリストで指定



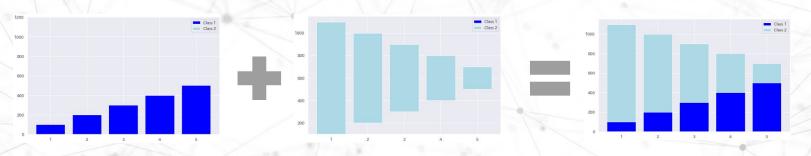


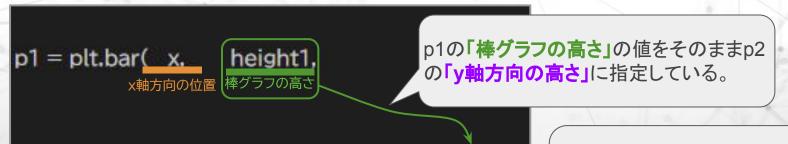
棒グラフの応用:比較棒グラフ





棒グラフの応用:積み上げ棒グラフ





p2 = plt.bar(<u>x.</u> <u>height2, bottom = height1,</u> x軸方向の位置 棒グラフの高さ y軸方向の位置

引数「bottom」

棒グラフのy軸方向の高さを指定する引数。 渡した値の分、お尻が持ち上がるイメージ。

円グラフ:plt.pie()

【使い方】

表示をしたい要素の順に値 を入力したリストをそれぞれ の引数に渡して使う。

【主な引数】

X

各要素の値

label

各要素に表示する文字列

colors

各要素の色

explode

各要素を中心からどの程度 離して表示するかの値

startangle

要素を並べる起点の位置を 角度で指定する(「O」に指定す ると3時の位置が起点になる)

[0]

[1]

[2]

[3]

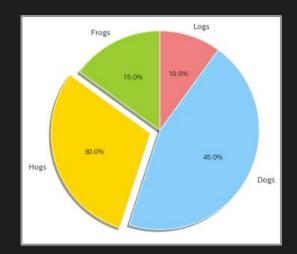
```
labels = [ 'Frogs', sizes = [ 15, colors = [ explode = ( 0,
```

'Hogs', 30, 'gold', 0.1, 'Dogs', 45, 'lightskyblue', 0,

'Logs'] 10] 'lightcoral'] 0)

グラフを表示

```
plt.pie(x = sizes,
explode = explode,
labels = labels,
colors = colors,
autopct = '%1.1f%%',
shadow = True,
startangle = 90)
```



円グラフは使い方に注意が必要

Google

円グラフ メリット デメリット





Q すべて 📵 画像 📵 ニュース 🕢 ショッピング 🕟 動画 : もっと見る

約3.860.000件(0.52秒)

https://matsuda-blog.info > データ分析・統計・数学 ▼

円グラフを使ってはいけない3つの理由。代わりに棒グラフを ...

2021/11/14 — もちろん円グラフにも強みはありますが、デメリットの方が大きいのが事実です。実 際、科学の世界では円グラフはほとんど用いられず、棒(帯)グラフを ...

https://dataviz.hatenablog.com > entry > 2019/02/05 *

それでもまだ円グラフを使いますか? - データ可視化の...

2019/02/05 — 今日のテーマは円グラフ (パイチャート) です。みんな大好き円グラフ。レポートや白 書、報告書、そういったものには必ず1つ以上円グラフが入ってい... 22/05/07 にこのページにアクセスしました。

https://jikitourai.net > 生活・コラム ▼

円グラフを安易に使ってはいけない理由を実例を交えて説明し...

2021/04/08 — 見た目がかっこいいからと3D円グラフを使っていないでしょうか? 円グラフは作成 が簡単なのでつい使いがちなグラフですが、見る人の認識を誤らせやすい... サンブルで見るダメな円グラフ・3D円グラフの問題点、平面の円グラフではどうか 22/05/07 にこのページにアクセスしました。

https://sigma-eye.com > エクセル ▼

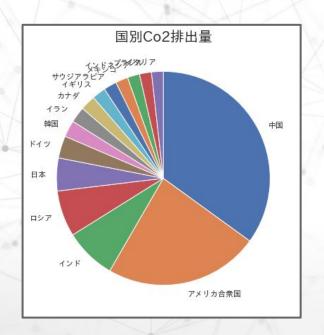
実は使えない円グラフ2つの理由を紹介します【代替案も...

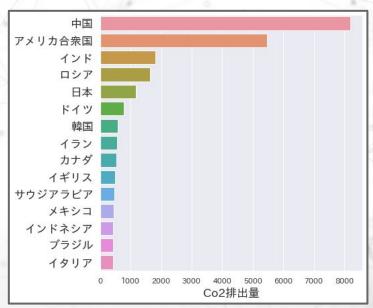
2020/01/07 - データの解析をする上で、グラフというものは必要不可欠です。棒グラフ、線グラ フ、レーダーチャート・・・様々なも、

- 円グラフを使うことそれ自体に対して賛 否両論があることだけは頭の片隅にいれ ておく
- 実務家からも「使うべきでない」という意 見が上がっている(※)

※松本健太郎『グラフをつくる前に読む本』、技術評論社、2017など

円グラフは使い方に注意が必要

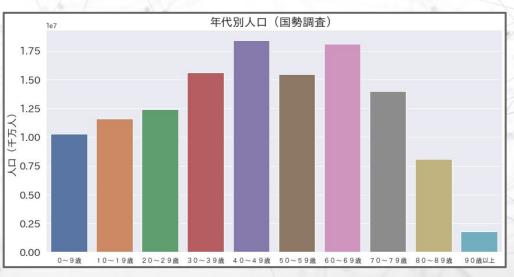




- 支配的なシェアを持つ要素が存在することを目立たせる効果はある
- 円グラフはちょっと要素数が多いだけでラベルが潰れるなどして調整に無駄な手間がかかる

円グラフは使い方に注意が必要

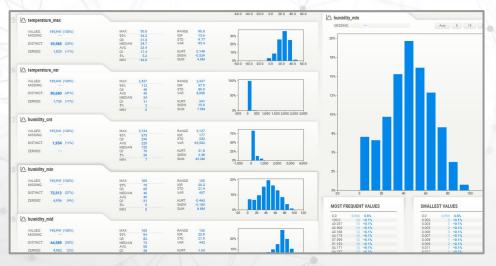


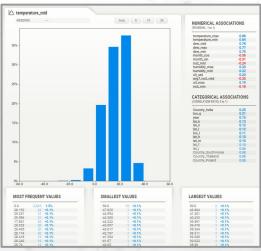


- 円グラフは支配的なシェアの要素がない場合は漫然とした印象になりやすい。
- 棒グラフに比べて円グラフでは要素間の差が直感的に把握しにくい。

EDA自動化ライブラリの例: Sweeting

https://github.com/fbdesignpro/sweetviz

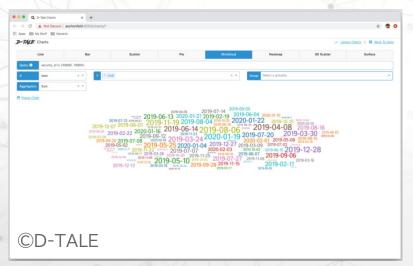


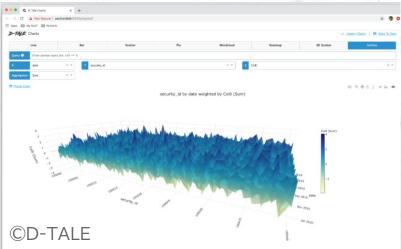


EDA自動化ライブラリの例:



https://github.com/man-group/dtale







記述統計と推計統計

記述統計

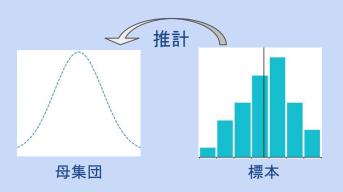
手元の標本データを把握して 要約・記述する方法



ここにいる集団の性質を把握

推計統計

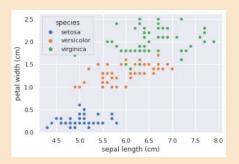
手元の標本データに基づき その背後にある母集団について 推計する方法



量的データと質的データ

量的データ

四則演算が有効な数値で比率に 意味がある(金額・時間・年齢etc.)



連続値も離散値も含む

質的データ

カテゴリや状態を表現するための データで四則演算に意味がない (性別・状態区分・ある事柄への該当有無etc.)

address	famsize	Pstatus	Medu	Fedu
U	GT3	A	4	4
U	GT3	Т	1	- 1
U	LE3	T	Î	i i

「Medu(母親の学歴区分)」などは数値型なので四則演算できないこともないが、分析上の意味はもたない

平均値と中央値のどちらを使うか

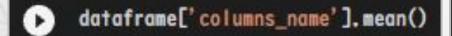
平均值

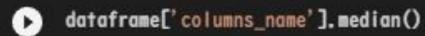
変量の総和を個数で割ったもの

中央值

分布の中央にくる値のこと

1, 2, 100





平均値は外れ値の影響を受けやすいことに注意を要する

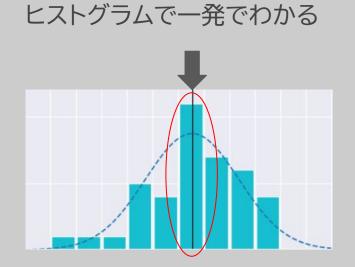
最頻値を併せて使う

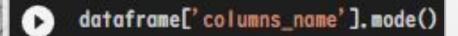
最頻値とは

最も度数(頻度)が多い値のこと

1, 2, 3, 3, 4 =最頻値は3

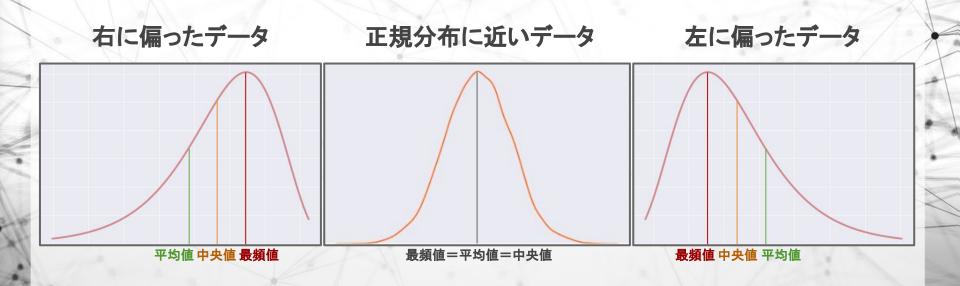
外れ値の影響は受けない





最頻値は山が複数あるような分布のデータでは注意が必要

平均値と中央値と最頻値の関係



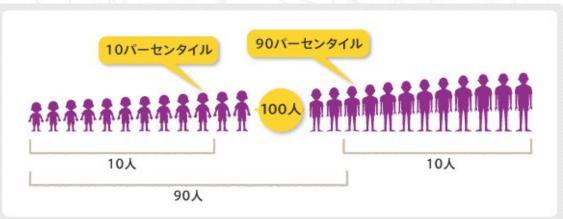
平均值=中央值=最頻值

平均値<中央値<最頻値

©2022 Ryogo Nakauchi

最頻値<中央値<平均値

パーセンタイルと要約統計量の把握



全体を100として小さい方から数えて何番になるのかを示す数値

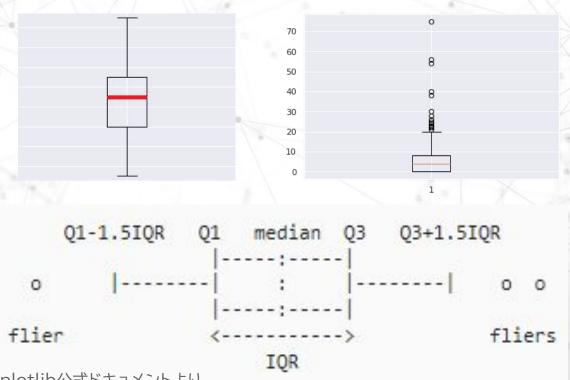
```
# 要約統計量
student_data_math['absences'].describe()
         395,000000
count
          5.708861
mean
          8.003096
std
min
          0.000000
25%
          0.000000
50%
          4.000000
75%
          8,000000
          75.000000
max
Name: absences, dtype: float64
```

Pandasの.describe()メソッドで他の統計量と併せて一括算出できる

参照URL: http://ghw.pfizer.co.jp/comedical/evaluation/images/img-relation-01.gif

四分位数と箱ひげ図

箱の下底	第1四分位 25パ - センタイル			
箱内部の赤い線	第2四分位 50パ゚-センタイル 中央値			
箱の上底	第3四分位 75パ - センタイル			
ひげの端	四分位範囲 (IQR)の1.5倍			
フライヤーポイント	四分位範囲 (IQR)の1.5倍を 超えた外れ値			



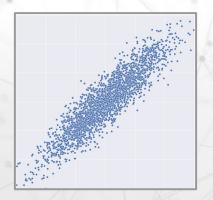
matplotlib公式ドキュメントより

https://matplotlib.org/stable/api/ as gen/matplotlib.pyplot.boxplot.html

相関係数の性質

- 「-1」から「1」までの値を取る
- 正の相関が強いと相関係数が1に近づく
- 負の相関が強いと相関係数が1に近づく
- 相関係数が「1」or「-1」のときは完全相関という
- 相関係数が0の付近は相関がないといえる

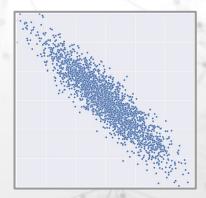
- 相関関係は因果関係とは異なる
- あくまで、どれだけ比例的な関係を持っているかを計るもの
- 「1」でも「-1」でも分析には等しく有効



正の相関

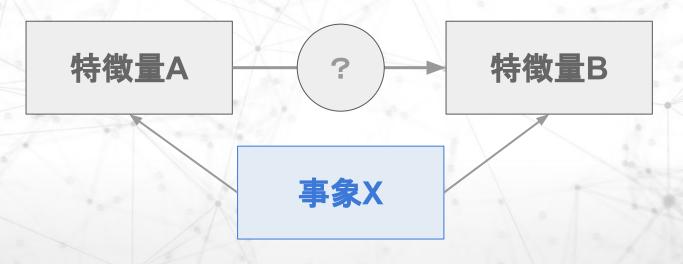


相関がない



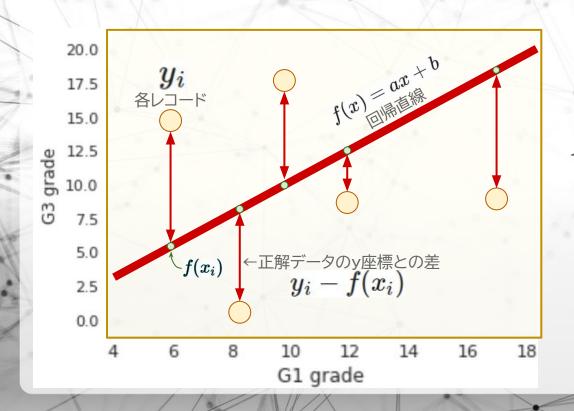
負の相関

相関関係は因果関係とは異なる



- 特徴量AとBの間に高い相関係数があっても、第三の要因Xが双方に等しく原因として作用している可能性もある
- そもそも完全な偶然である場合も多々ありうる
- 因果関係は機械的に求められるものではなく、ドメイン知識と併せた丁寧な考察が必要

最小二乗法による単回帰分析



$$f(x) = ax + b$$

誤差が最小になる 係数aと切片bを 求める(計算は自動)

$$\sum_{i=1}^n (y_i - f(x_i))^2$$



learn Scikit-learnによる単回帰分析

①まず、Scikit-learnパッケージから、使いたい モデルが属するモジュールをインポートする。 (コーディング上は略称の「sklearn」を使うので 気を付ける。)

②Scikit-learnには線形モデル以外にも様々な 種類もモデルが用意されており、これらは次週で 本格的に学ぶ。

from sklearn import linear_model

線形回帰のインスタンスを生成

reg = linear_model.LinearRegression()



learn Scikit-learnによる単回帰分析

今回は **モジュール名₋関数** という形で呼び出している。

[] from sklearn import linear_model

線形回帰のインスタンスを生成

reg = linear_model.LinearRegression()

※モジュール名(numpyやpandasでいうと 「np.」や「pd.」に相当する部分)

※以下のインポート方法により、緑色下線部分の 表記を省く場合もある。

from sklearn.linear model import LinearRegression()

①機械学習モデルを作成するコンストラクタ関数 (※クラスインスタンスを作成する関数のことをコ ントラクタ関数という。)

②コントラクタ関数により左辺の変数(ここでは 「reg」)に機械学習モデルが格納される。

learn 機械学習モデルはメソッドで操作する



Step1

モデル別のコンストラクタ 関数で機械学習モデルを 作成

線形回帰のインスタンスを生成 reg = linear_model.LinearRegression()



Step2

「.fit()」メソッドで学習 説明変数と目的変数を引 数に渡す(ここではXとY)

予測モデルを計算、ここでa,bを算出 reg.fit(X, Y)



Step3

「.predict()」メソッドで 予測(予測させたいデータ を引数に渡す

予測したいデータを読み込ませて予測させる reg.predict(test_data)



learn 単回帰分析モデルの結果表示関係のメソッド

.coef_

回帰係数を表示



.score(X, Y)

決定係数を表示

.intercept_

切片を表示

その他にもいろいろ! (必要に応じて公式ドキュメ ントを参照する)

Scikit-learnは各ライブラリの中でも特に公式ドキュメントが見やすい。 →積極的に公式の情報を参照するのがおすすめ。